



All to play for
**Football Money
League**

トップ20クラブの
収入の合計は
2012/13シーズンに
54億ユーロ、
2011/12シーズンとの
比較で8%増となった

目次

2	The Deloitte Football Money League
7	調査方法
8	ランキング結果

編集:

Dan Jones

副編集:

Austin Houlihan

著者:

Richard Battle
Alex Bosshardt
Timothy Bridge
Chris Hanson
James Savage
Andy Shaffer
Chris Stenson
Alexander Thorpe

Sports Business Group at Deloitte

住所: PO Box 500, 2 Hardman Street, Manchester, UK
M60 2AT
電話: +44 (0)161 455 8787
E-mail: sportsteamuk@deloitte.co.uk
URL: www.deloitte.co.uk/sportsbusinessgroup

翻訳:

日置 圭介
武富 涼介

**デロイトトーマツ コンサルティング株式会社
グローバル マネジメント インスティテュート**

住所: 〒100-6390 東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルディング17階
電話: 03-5220-8600
E-mail: dtc_gmi@tohmatu.co.jp
URL: www.tohmatu.com/dtc

The Deloitte Football Money League

Deloitte Football Money Leagueの世界へようこそ！

本稿はDeloitteが世界で最も収益をあげているサッカークラブを紹介するDeloitte Football Money Leagueの第17版*1となります。

本稿は財務的な観点からみた各サッカークラブのパフォーマンスの現状について、信頼性の高い比較分析をお届けします。

各クラブを比較するための財務上／非財務上の指標には観客動員数、世界中にいるファンの数、テレビ視聴者、試合での成果等、多くの指標が考えられるが、Deloitte Football Money Leagueでは、各クラブの入場料収入、法人年間契約席による収入、放映権収入(国内リーグ・カップ戦、欧州リーグ・カップ戦からの分配金も含む)、スポンサー収入、マーチャンダイジング(商品化)収入、その他の商業活動から生み出される収入を基にランキングを作成している。

グランプリ(Grand prix)

ここ数年、ランキング上位の顔ぶれが毎年変わらない状態が続いていたが、サッカー界の景色を変えるような数多くの興味深い変化によって、2012/13シーズンはこれまでとは異なる結果となった。まず、ドイツのFCバイエルン・ミュンヘンがUEFAチャンピオンズリーグと国内リーグでの成功によって、イングランドのマンチェスター・ユナイテッドFCをトップ3の座から引き摺り下ろした。またもうひとつの変化は、パリ・サンジェルマンのビッグクラブとしての興隆であり、同クラブはフランスのクラブとして過去最高の順位に位置付けられた。

イングランドのマンチェスター・シティーFCは持続的な成長により順位を6位まで上げ、イングランドのプレミアリーグに所属するライバルであるチェルシーFC及びアーセナルFCを上回る順位を初めて獲得した。一方イングランドのリバプールFCは1999/2000シーズン以来のトップ10落ちとなった。

5大リーグ(イングランド、イタリア、ドイツ、スペイン、フランス)所属クラブが引き続きランキングを独占する一方で、新興市場のクラブが強力な追い上げを見せていることは特筆すべきだろう。ガラタサライAS、及びフェネルバフチェSK(共にトルコ)のトップ20入り、さらにコリンチャンス(ブラジル)のトップ30入り

は、トルコ及びブラジルの経済成長、国民のサッカーへの情熱、そしてサッカー関連インフラの発達を示した格好である。

ガラタサライASはトルコのクラブとしては過去最も高い順位である16位にランクインした。また同クラブのライバルであるフェネルバフチェSKも18位に入っている。ガラタサライASは、同クラブの新しいスタジアムであるTürk Telekom Arenaが生み出す収益と、UEFAチャンピオンズリーグにおける好成績とを背景に大きな躍進を遂げた。ガラタサライASとフェネルバフチェSKの更なる成長の可能性は、Twitterにおける両クラブのフォロワー数が今回トップ20入りしたクラブ内でそれぞれ第3位と6位に入っていることからうかがえる。

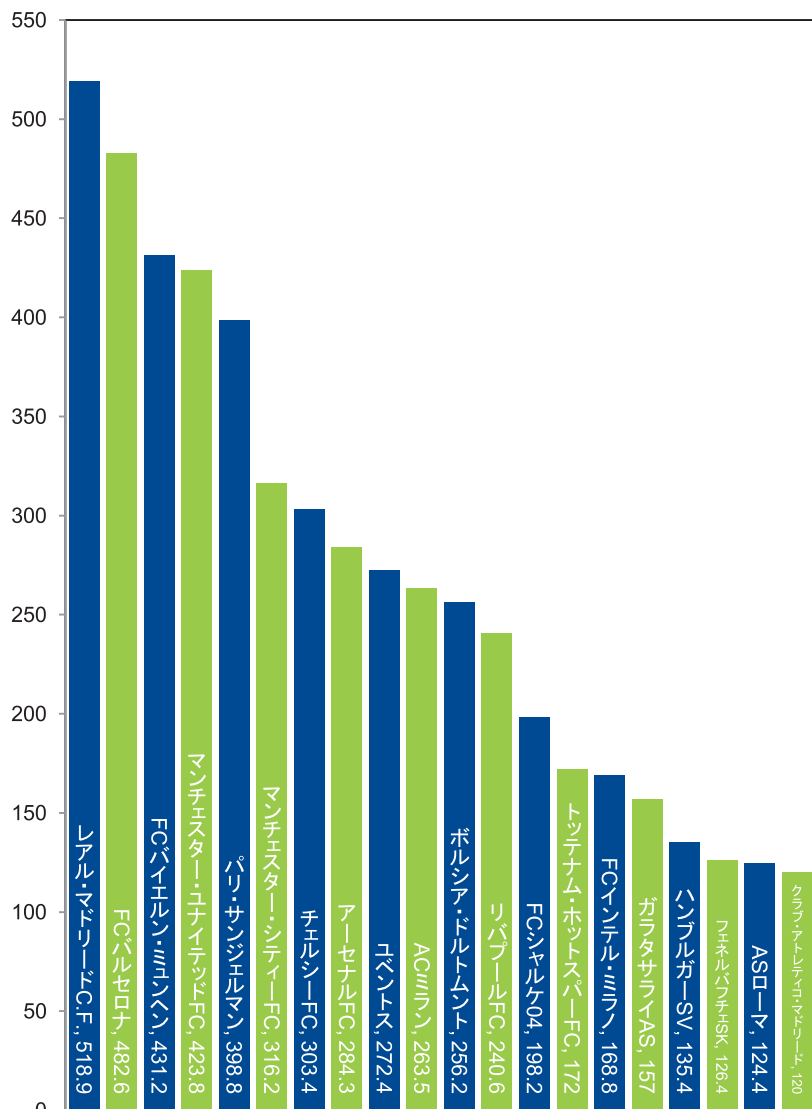
5大リーグ以外から2クラブ以上がトップ20にランクインするのは、2005/06シーズン以来のことである。ガラタサライASとフェネルバフチェSKを除くと、6クラブがイングランド、4クラブがドイツ、同じく4クラブがイタリア、3クラブがスペイン、そして1クラブがフランスからそれぞれランクインしている。

今回のトップ20入りは逃したが、サッカー界の景色が変わりつつあることを示す存在がコリンチャンスだ。今回は24位だったが、2014年のブラジルW杯でさらに加速するブラジルのサッカー界の発展により、数年以内にトップ20入りする可能性は高いであろう。



*1 Deloitte Football Money Leagueは1996/97シーズンより発行されており本稿で第17版となりますが、日本語抄訳版の発行は今回が初めてとなります。フルレポート(英語)については下記URLからご覧ください
http://www.deloitte.com/view/en_GB/uk/industries/sportsbusinessgroup/sports/football/deloitte-football-money-league/

トップ20クラブの2012/13シーズンにおける総収入(百万ユーロ)



出所: Deloitte Analysis

前年までとは大きく変化した今回のランキングは、世界最高峰のクラブ群における、昨今の様々な変化が反映されている。トップ20にランクされているクラブは全て欧州のリーグに所属しているが、いまや1/3以上のオーナーもしくは筆頭株主は欧州圏外の国籍を有する者たちである。特に米国と中東諸国の個人や企業からのトップクラブに関与したいという欲求はこれまでになく、高くなっている。

2013/14シーズンのスタート時点において、トップ20のクラブのうち7クラブがユニフォームへの広告枠を中東の航空会社に与えている。サッカーへの世界的な関心の高まりは衰える様子を見せず、トップ20クラブの収入は、今後彼らがサッカー界における新興市場を開拓し、収入を拡大する手法を模索し続けることで、さらに増加していくと予想すべきである。

精鋭中の精鋭(Crème de la crème)

トップ20クラブの収入の合計は今年も成長し、2011/12シーズンの50億ユーロから8%成長となる54億ユーロとなった。厳しい経済動向を鑑みると、素晴らしい結果と言えるだろう。また2013/14シーズンには60億ユーロの大台も見えてくる。

今年のランキングで各クラブがトップ30入りを実現するためには、少なくとも1億ユーロの収入が必要になっているが、1996/97シーズンに発行されたFootball Money Leagueの第1版では、1億ユーロ以上の収入を記録したのはイングランドのマンチェスター・ユナイテッドFCだけで、トップ20全てのクラブの収入が1億ユーロを超えたのは2007/08シーズンが初めてであった。

デジャブ(Déjà-vu)

スペインのレアル・マドリッドC.F.が今年もトップに立ち、9年連続トップとなった。これで、マンチェスター・ユナイテッドFCの8年連続を抜いて、連続トップの最長期間記録を塗り替えた。

また、ランキング2位で同じくスペインのFCバルセロナとの差は、FCバルセロナの収入が若干落ち込んだことが影響し、2011/12シーズンの2,960万ユーロから、3,630万ユーロに開いた。レアル・マドリッドC.F.はエミレーツ航空、FCバルセロナはカタール航空と、2013/14シーズンはそれぞれ中東企業とユニフォームのスポンサー契約を結んでいる。FCバルセロナは、レアル・マドリッドC.F.とのピッチ内外での競争が激しくなるのに伴い、同クラブの収入が2013/14シーズンには5億ユーロを突破すると予想している。

今年のランキングで各クラブがトップ30入りを実現するためには、少なくとも1億ユーロの収入が必要になっているが、1996/97シーズンに発行されたFootball Money Leagueの第1版では、1億ユーロ以上の収入を記録したのはイングランドのマンチェスター・ユナイテッドFCだけで、トップ20全てのクラブの収入が1億ユーロを超えたのは2007/08シーズンが初めてであった。

過去を振り返ってもFCバイエルン・ミュンヘンの商業収入は常に高い水準にあり、今年のランキングではフランスのパリ・サンジェルマンにその額で上回られたものの、その他のクラブと比較すると彼らの商業分野での成功は印象的である。

再生(La renaissance)

ドイツのFCバイエルン・ミュンヘンがピッチ上で残した国内外での圧倒的な成績(ドイツ勢では初となる国内リーグ戦、国内カップ戦、UEFAチャンピオンズリーグの三冠を達成した!)は、彼らのランキング順位が3位へ上昇したことに表れている。ドイツのブンデスリーガからは他に、ボルシア・ドルトムント、FCシャルケ04、ハンブルガーSVの3クラブがトップ20にランクインしている。

FCバイエルン・ミュンヘンの総収入のうち55%は商業収入であり、前年から3,550万ユーロの増加を達成している。また、放映権収入は2,560万ユーロ増加し、これらがマンチェスター・ユナイテッドFCを追い抜くことに繋がった。

過去を振り返ってもFCバイエルン・ミュンヘンの商業収入は常に高い水準にあり、今年のランキングではフランスのパリ・サンジェルマンにその額で上回られたものの、その他のクラブと比較すると彼らの商業分野での成功は印象的である。

ペップ・グアルディオラ監督の指揮の下、FCバイエルン・ミュンヘンは2013/14シーズンを極めて力強くスタートしたが、商業収入を伸ばし続けているマンチェスター・ユナイテッドFCをランキングで再度上回るためには、ピッチ上での好パフォーマンスをシーズンを通じて続けていく必要があるだろう。

離れ業(Tour de force)

イングランドのプレミアリーグからは6つのクラブがランキングのトップ20に入り、再び、最も多くのクラブをランクインさせたリーグとなった。

マンチェスター・ユナイテッドFCは4位へ陥落したが、最近締結された商業契約が今年の結果には反映されておらず、陥落は一時的なものと思われる。2013/14シーズンは、「赤い悪魔(マンチェスター・ユナイテッドFCの愛称)」にとって収入面で飛躍の年とな

ると考えられる。Aon社とのトレーニング施設名称等に関するものを含む商業契約と、プレミアリーグの放映権収入により、来年その収入は4億ポンド(約4億6,700万ユーロ)を超えることが予想される。同クラブの長期的なランキングは、当然ピッチ上の成績、特にUEFAチャンピオンリーグに出場し続けるクラブでいられるかにかかっているが、2013/14シーズン開始早々の成績は期待を裏切る内容である。

イングランドのクラブの中で急速にランキングを上げているマンチェスター・シティFCはアーセナルFCとチェルシーFCを抜いて6位に入った。

2013/14シーズンのランキングでは、プレミアリーグが最近結んだ高額な放映権契約に支えられ、イングランドのプレミアリーグ所属の全てのクラブで高い収入の伸びを示すことが予想される。今年12位に退いたリバプールFCや、14位に終わったトッテナム・ホットスパーFCは来年順位を上げてくると想定される。また2013/14シーズンのランキングにはエバートンFC、ニューカッスル・ユナイテッドFC、ウェストハム・ユナイテッドFCといったクラブがトップ20に食い込む可能性が出てきており、一つのリーグからトップ20にランクインするクラブ数の最多記録を塗り替える可能性もある(これまでの記録は8クラブ)。

革命(la revolution)

ランキング史上最も高額な商業収入をあげたパリ・サンジェルマンがフランスリーグからの唯一のランクインとして5位に入った。パリ・サンジェルマンが達成した2億5,470万ユーロの商業収入はMoney League始まって以来、一つの収入源から獲得した金額としては最大の金額となる。

カタールからの投資に大いに支えられ、パリ・サンジェルマンの収入は、2009/10シーズンから約5倍に成長している。ビジネスの拡大と中東との強力なコネクションによる更なる収入の成長によって、パリ・サンジェルマンがランキングのトップ5常連になっていったとしても驚きは無い。





袋小路(Cul-de-sac)

9位にランクインしたユベントスを筆頭に、イタリアからは4つのクラブがトップ20にランクインした。「老貴婦人(ユベントスの愛称)」は、新たなホームスタジアムであるJuventus Stadiumによる収益力向上の恩恵を引き続き受け、順位を9位へと1つ上げた。またこの結果には準々決勝で敗退したにも関わらず、受け取ったUEFAチャンピオンズリーグの分配金が参加クラブ中、最も高額であったことが大きく寄与している。

ACミランが10位にランクインする一方、FCインテル・ミラノはピッチ上の不振、特にUEFAチャンピオンズリーグへの出場を逃したことにより、15位にとどまった。19位に入ったASローマは、2013/14シーズンを極めて力強くスタートしており、来年は順位をさらに上昇させることが予想される。

Money Leagueで分析を行ったクラブの大半が厳しい経済環境の中、収入を伸ばしている一方で、ユベントスを除くイタリアのクラブは概して成長に苦勞しており、順位を下げている。ユベントス以外のイタリアのクラブは自前のホームスタジアムを保有していないため、投資をかけることによって入場料収入・商業収入を拡大することが難しい状況にある。

次世代の有カクラブ(Le peloton)

我々は昨年レポートで、世界経済の大きなトレンドがFootball Money Leagueの結果にも反映され、欧州以外の国から5大リーグの競合としてランクインするクラブが出始めた一方で、5大リーグ以外の、伝統的にサッカーが強い欧州の小国のクラブがトップ20に入ることの難易度が上がってきている状況をお伝えした。この傾向は、右記の表でSLベンフィカ(ポルトガル)、AFCアヤックス(オランダ)がコリンチャンス(ブラジル)よりも下位に位置していることからもうかがえる。

2012/13シーズン 20位以下のクラブ(トップ30まで)

順位	クラブ名	総収入 (百万ユーロ)
21	VfBシュツットガルト	116.5
22	SSCナポリ	116.4
23	バレンシアCF	116
24	コリンチャンス	113.3
25	ニューカッスル・ユナイテッドFC	111.9
26	SLベンフィカ	109.2
27	AFCアヤックス	107.6
28	SSラツィオ	106.2
29	ウェストハム・ユナイテッドFC	104.8
30	オリピック・マルセイユ	104.3

コリンチャンスが昨年より順位を上げ24位に入ったことは、世界規模の競争が進んでいることが良くわかる兆候だ。今後の数年間で、サッカー関連インフラの充実により、さらに多くのブラジルのクラブがトップ20に食い込んでくるか否か、非常に興味深い。

2014年のブラジルW杯を前にして、コリンチャンスの順位が上昇したことを鑑みると、2018年のW杯ホスト国であるロシアの各クラブは大きな成長の機会を持っているはずである。近い将来に、ロシアのクラブがトップ20に入って来られるのかについても注意深く見守っていきたい。

来年のトップ20~30の顔ぶれは、イングランドのプレミアリーグの放映権契約の影響を受けて、大きく変動すると考えられる。

トップ20への更なるランクインはもちろん、イングランドの上位20クラブは全てランキングのトップ50に入り、その殆どはトップ30に入ることが予想される。

2014年のブラジルW杯を前にして、ブラジルのコリンチャンスが順位が上昇したことを鑑みると、2018年のW杯ホスト国であるロシアの各クラブは大きな成長の機会を持っているはずである。



ボン・ヴォヤージュ (Bon Voyage)

Football Money Leagueが各クラブの収入に着目している一方で、UEFAによって各クラブの財政健全化を促す規制(ファイナンシャル・フェアプレー)が導入され、持続可能な水準に支出額を抑制することが欧州の各クラブにおいて焦点となっている。

UEFAは既に、規制に未対応のクラブに対して働きかけを行うことを表明している。ファイナンシャル・フェアプレーに従わないクラブに対する初めての制裁は、2013/14シーズン中に行われると想定される。

今後欧州サッカー界では規律の取れた、責任あるガバナンス体制と財務マネジメントの下、クラブ施設やユースの育成に十分な投資が行われることを期待したい。

謝辞 (Mise en scène)

Deloitte Football Money Leagueは下記メンバーによって編集を実施いたしました。

- Dan Jones
- Austin Houlihan
- Richard Battle
- Alex Bosshardt
- Timothy Bridge
- Chris Hanson
- James Savage
- Andy Shaffer
- Chris Stenson
- Alexander Thorpe

最後に本稿を編集するにあたって多大なご協力をいただいた国内外のDeloitteグループ、及び外部関係者の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。全世界にいるサッカーファンの皆様楽しんで頂ければ幸いです。

Dan Jones, Partner (写真上)

www.deloitte.co.uk/sportsbusinessgroup



調査方法

総収入は、各クラブもしくは当該クラブを含む企業グループの2012/13シーズンの財務諸表、またはその他の直接的な情報源より取得した数値を使用している(特に記載がある場合を除く)。

総収入には選手の移籍金及び、VAT(付加価値税)やその他の消費税は含まれていない。我々がより有意義と考えるクラブ間比較を行うために、ごく一部、総収入に修正を加えているケースがある。

各クラブの財務情報は、各国の国内会計基準または、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成されている。いくつかのクラブの財務諸表は会計基準の改訂により変更されている、もしくは将来的に変更され得る。こうした変更の影響は、場合によっては極めて大きくなる。

各クラブから我々に提供された情報に基づいて、可能な範囲で各クラブの総収入を入場料収入、放映権収入、商業収入の3つに分類している。各クラブの総収入の分類の仕方は完全に一致しているわけではないので、我々がより有意義と考える比較を行うため、いくつかのクラブの総収入内訳は再分類している。

入場料収入は、大部分がスタジアムでの入場料による売上(シーズンチケット、会員権を含む)となっており、放映権収入は、国内外のリーグ・大会に関する放映権収入を含んでいる。また商業収入にはスポンサー収入とグッズ売上が含まれている。各クラブ間の総収入内訳について、さらに詳細な比較分析を行うためには公開されていない情報の入手が必要になる。



各クラブの財務情報は、各国の国内会計基準または、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成されている。

クラブ間、または年度間で発生する差異のうち一部は、事業内容や財務諸表における商取引の記録の仕方の違いや、各クラブの異なった財務報告環境、また、同じ商取引が異なった方法で記録されるなどの会計実務の差異に起因している可能性がある。

本レポートは、財務諸表以外に、様々な公開情報、またその他の直接的な情報源より取得した情報を含んでいる。我々は本レポート刊行にあたり、それらの情報に対するいかなる検証や監査も行っていない。

特に記載が無い場合、2012/13シーズンの金額には2013年6月30日時点の為替レートが適用されている(€1=€1.1668、€1 = TRY 2.508、€1 = BRL2.8714)。

比較数字は、過去のFootball Money Leagueや関連する財務諸表及びその他の直接的な情報源から得た情報から抜粋している。

クラブの相対的な富や価値を測る方法は多々あり、Deloitteでもクラブの将来キャッシュフローを予測するモデルを潜在的な投資家や売却候補クラブのために開発している。しかし、今回のような取組を実施する上で同モデルを適用するには公開情報が不足しており、Football Money Leagueにおいては、もっとも入手が容易で、かつ比較が可能な財務的指標として総収入を用いている。

ランキング結果

2012/13シーズン ランキング(百万ユーロ)

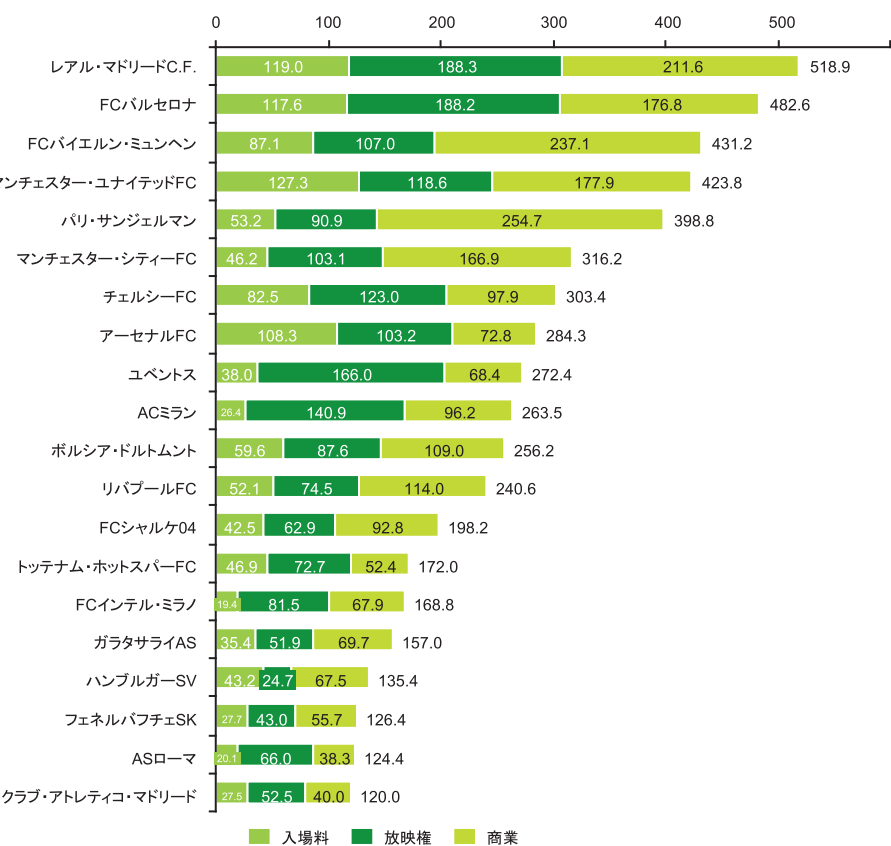
1	→←	0	レアル・マドリードC.F.	518.9
2	→←	0	FCバルセロナ	482.6
3	↑	1	FCバイエルン・ミュンヘン	431.2
4	↓	(1)	マンチェスター・ユナイテッドFC	423.8
5	↑	5	パリ・サンジェルマン	398.8
6	↑	1	マンチェスター・シティーFC	316.2
7	↓	(2)	チェルシーFC	303.4
8	↓	(2)	アーセナルFC	284.3
9	↑	4	ユベントス	272.4
10	↓	(2)	ACミラン	263.5
11	↑	1	ボルシア・ドルトムント	256.2
12	↓	(3)	リバプールFC	240.6
13	↑	2	FCシャルケ04	198.2
14	→←	0	トッテナム・ホットスパーFC	172
15	↓	(4)	FCインテル・ミラノ	168.8
16	↑	3	ガラタサライAS	157
17	↑	3	ハンブルガーSV	135.4
18	n/a	new	フェネルバフチェSK	126.4
19	n/a	new	ASローマ	124.4
20	n/a	new	クラブ・アトレティコ・マドリード	120

2011/12シーズン ランキング(百万ユーロ)

1	→←	0	レアル・マドリードC.F.	512.6
2	→←	0	FCバルセロナ	483
3	→←	0	マンチェスター・ユナイテッドFC	395.9
4	→←	0	FCバイエルン・ミュンヘン	368.4
5	→←	0	チェルシーFC	322.6
6	→←	0	アーセナルFC	290.3
7	↑	5	マンチェスター・シティーFC	285.6
8	↓	(1)	ACミラン	256.9
9	→←	0	リバプールFC	233.2
10	n/a	new	パリ・サンジェルマン	220.5
11	↓	(3)	FCインテル・ミラノ	200.6
12	↑	4	ボルシア・ドルトムント	196.7
13	→←	0	ユベントス	195.4
14	↓	(3)	トッテナム・ホットスパーFC	178.2
15	↓	(5)	FCシャルケ04	174.5
16	↑	4	SSCナポリ	148.4
17	↓	(3)	オリンピック・マルセイユ	135.7
18	↓	(1)	オリンピック・リヨン	131.9
19	n/a	new	ガラタサライAS	129.7
20	↓	(2)	ハンブルガーSV	121.1

順位
 前年順位との比較
 前年順位からの変動値

2012/13シーズンにおけるトップ20クラブの収入源別総収入(百万ユーロ)

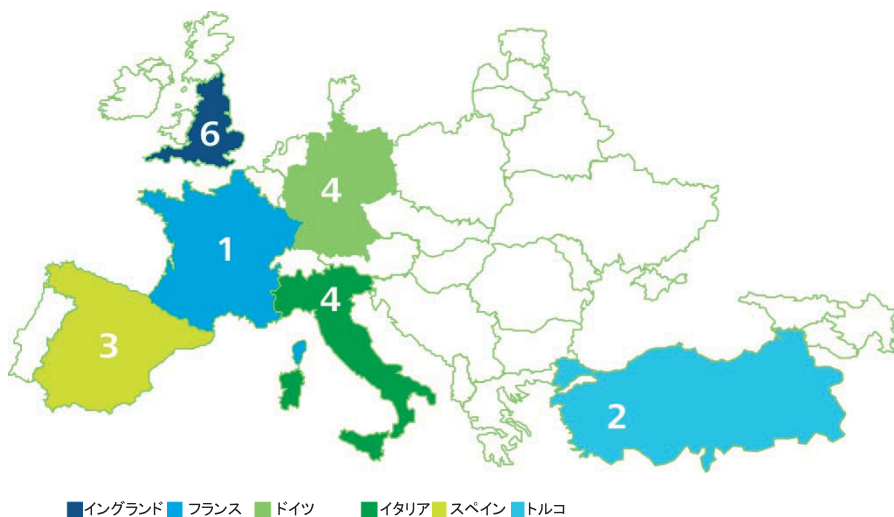


2012/13シーズンにおけるトップ20クラブのオーナー国籍

順位	クラブ名	オーナー国籍
1	レアル・マドリードC.F.	欧州
2	FCバルセロナ	欧州
3	FCバイエルン・ミュンヘン	欧州
4	マンチェスター・ユナイテッドFC	米国
5	パリ・サンジェルマン	中東
6	マンチェスター・シティFC	中東
7	チェルシーFC	欧州
8	アーセナルFC	米国
9	ユベントス	欧州
10	ACミラン	欧州
11	ボルシア・ドルトムント	欧州
12	リバプールFC	米国
13	FCシャルケ04	欧州
14	トッテナム・ホットスパーFC	欧州
15	FCインテル・ミラノ	アジア
16	ガラタサライAS	欧州
17	ハンブルガーSV	欧州
18	フェネルバフチェSK	欧州
19	ASローマ	米国
20	クラブ・アトレティコ・マドリード	欧州

(注)クラブが複数のオーナーによって所有されている場合、最も多くの所有権を持つオーナーの国籍を記載している

2012/13シーズンにおけるトップ20クラブの所属国



2012/13シーズンにおけるトップ20クラブのソーシャルメディア活動

クラブ名	Facebook「いいね！」(百万回)	Twitterフォロワー(百万人)
FCバルセロナ	52.4	10.9
レアル・マドリードC.F.	49.1	9.9
マンチェスター・ユナイテッドFC	39.6	1.7
チェルシーFC	21.7	3.3
ACミラン	19.3	1.7
アーセナルFC	19.0	3.4
リバプールFC	14.7	2.3
FCバイエルン・ミュンヘン	11.6	0.9
ユベントス	9.5	0.9
ガラタサライAS	9.4	3.5
マンチェスター・シティFC	8.4	1.4
フェネルバフチェSK	7.1	2.7
ボルシア・ドルトムント	6.7	0.7
パリ・サンジェルマン	6.5	1.0
トッテナム・ホットスパーFC	3.6	0.7
FCインテル・ミラノ	3.0	0.4
ASローマ	2.5	0.3
FCシャルケ04	1.7	0.1
クラブ・アトレティコ・マドリード	1.6	0.6
ハンブルガーSV	0.6	0.1

(注)クラブ側がTwitterアカウントを多言語で展開している場合は、最もフォロワー数の多いアカウントのみをカウントしている。また上記データは2014年1月17日時点のものである

デロイトトーマツ コンサルティング株式会社

グローバル マネジメント インスティテュート

〒100-6390 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング

Tel 03-5220-8600 Fax 03-5220-8601

www.tohmatsu.com/dtc

デロイト トーマツ コンサルティング (DTC) は国際的なビジネスプロフェッショナルのネットワークであるDeloitte (デロイト) のメンバーで、有限責任監査法人トーマツのグループ会社です。DTCはデロイトの一員として日本におけるコンサルティングサービスを担い、デロイトおよびトーマツグループで有する監査・税務・コンサルティング・ファイナンシャル アドバイザリーの総合力と国際力を活かし、日本国内のみならず海外においても、企業経営におけるあらゆる組織・機能に対応したサービスとあらゆる業界に対応したサービスで、戦略立案からその導入・実現に至るまでを一貫して支援する、マネジメントコンサルティングファームです。1,800名規模のコンサルタントが、国内では東京・名古屋・大阪・福岡を拠点に活動し、海外ではデロイトの各国現地事務所と連携して、世界中のリージョン、エリアに最適なサービスを提供できる体制を有しています。

Deloitte (デロイト) は、監査、税務、コンサルティングおよびファイナンシャル アドバイザリーサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスを提供しています。デロイトの約200,000名を超える人材は、“standard of excellence” となることを目指しています。

Deloitte (デロイト) とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”) ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数指します。DTTLおよび各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL (または “Deloitte Global”) はクライアントへのサービス提供を行いません。DTTLおよびそのメンバーファームについての詳細は www.tohmatsu.com/deloitte/ をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的事案をもとに適切な専門家にご相談ください。